

短大の現在と将来・カリキュラム改革

幼児教育科での試み

神谷 栄司

かみや・えいじ
千代田短期大学・幼児教育科
専攻は教育学・幼児教育学
一九五二年生まれ

大学教育と 資格制度

幼児教育科に身を置く私たちはここ数年、毎年のようにカリキュラム改革に直面してきた。教
免法改正にもとまう教職課程再課程認定、保育
所保育指針改訂に連動した保育養成課程改訂、短大設置基準大
綱化をうけたカリキュラムの全般的改革に対応せざるをえな
ったのである。

こうした動きのなかで、私がつとも悩ましく感じたのは、
二年間という短期間のなかで大学としての教育を充実させるア
イディアを具体化すればするほど、資格取得必要単位（本学

では幼稚園教諭二種免許状と保育資格）とあいまって、総単
数がどんどんふくれあがることであつた（両資格をとつて卒業
するには、ほぼ百単位を超えていた）。幼二種免は専門教育科
目三十一単位、保育資格は六十二単位（うち専門教育科目五十
単位）である。両者の科目は重なりあいが多いいとはいえ、保
資格に必要な単位数が短大卒業単位数と同じという状態は、各
大学独自の大胆なカリキュラム改革を困難にしよう。まさ
しく、大学教育と資格制度は現状では、はなはだしく矛盾しあ
うことになるのである。こうした条件のもとでは、改革の選択
肢はあまりにも狭いが、よりましなカリキュラムを、と考えて
きた。

科目区分と

単位の配分

まず本学科のカリキュラムの全体像であるが、
科目区分は従来ものを踏襲した。一般教育の
重要性を尊重したためである。単位の配分は
本年度より次のように柔軟性をもたせた。

A 一般教育科目……人文・社会・自然の三系列にわたつて十
単位以上

B 専門教育科目……四十単位以上

C 一般教育科目・外国語科目・保健体育科目・専門教育科目

のなかから十二単位以上

学生の興味・関心による選択を重視して、Cといういささかフアジーな領域を設けたのが特徴であるが、一般教育科目を最低十単位でよしとしないという趣旨も含まれている。

大学教育の

中核としたい

一般教育

私はカント『学部争い』に述べられているような意味で、自主的・批判的思考の形成に寄与する一般教育こそ大学の中核だと考えてきた。その趣旨にたつて、①三つの系列は学習のバランスを考慮して堅持する、②一般教育は体系をもたねばならない、③各系列の内容は、(イ)概論、(ロ)現代的問題(研究者でない方が担当)、④個別学問領域の三つの層で構成する、という旨の提案をした。一般教育担当者でない者からの強引な提案であったが、一般教育部会は改善の趣旨をよく議論され、より現実的な改革にふみだすことになった。

(イ) 各系列の概論は学生にはかえって抽象的になるので設けないが、そのかわり、総合科目(現代と人間にかんする総合研究)、講義・一回生ゼミ各二単位必修)を設置することに、今年で三年目を迎えた。本年度の講義は「女性学」と銘うって開講。性、母体保護、出産、エイズ、アトピー・アレルギー、セクハラなどの問題を通して、「子供を生みはぐくむすばらしい女性のいのち」の多角的考察を予定している(リレー講義)。

(ロ) 現代的問題を扱う科目は新設することになった。今のところ、現代文化論と現代社会論の二つを開講、前者は演劇家、後者は文芸評論家に担当していただいている。

(イ) 個別的学問領域は従来通りで、現在のところ十三科目の開講である。

以上のように(イ)、(ロ)、(ハ)の三つの層で一定の体系化が始まったのが本学の現状である。なお、一般教育科目は各系列一科目二単位の選択必修で学則上の卒業基準をみたすことになるが、先に述べたC領域とも関連づけて、各系列二科目四単位の履修を指導している。

外国語科目と

保健体育科目

両科目は資格取得単位の多さのために、選択の扱いにせざるをえなかった。ただ外国語科目は本学に英米語学科もあるため、英語・フランス語・スペイン語・中国語を開講している。保健体育科目は幼二種免にも保母資格にも必修科目であるため本学科では履修者減はあまりない(英米語学科では激減)。

専門教育科目の問題

本学科の専門教育科目は一科目をのぞいて二つの資格に必要な科目でみられている。他の短大の同種学科でもほぼ同様であろう。したがって、本学独自のユニークな科目構成は不可能に近い。

専門教育の抜本的改革のためには、①保母資格に必要な科目を大幅に削減すること、②幼二種免の方も今より軽減すること、

③そのうえで、二つの資格に必要な科目の多くを、卒業基準にかかわる科目とは別に設置すること、が前提となるだろう。